

2020 年度日本海洋学会秋季評議員会議事録

日時:2020 年 10 月 20 日(火)14:00~16:00

場所:Zoom を利用したオンライン開催

出席者:神田会長、伊藤副会長、相木、安藤、石井、石坂、市川、岩坂、植原、植松、江淵、大島、岡、小川、小埜、小畑、郭、川合(美)、川合(義)、響田、久保川、齊藤、須賀、杉崎、鈴村、千手、多田、千葉、張、津田、東塚、中野、中村、西岡、羽角、花輪、原田、日比谷、広瀬、本多、升本、道田、森本、安田(一)、安田(珠)、山中、安中、寄高 各評議員(48名)

蒲生三賞選考委員長、福田環境科学賞選考委員長、田村ブレイクスルー研究会会長、梅澤海洋環境問題研究会・海洋環境委員会会長、吉田海の研究編集委員長、高橋幹事、西部幹事、三角幹事、毎日学術フォーラム(平坂)

委任状:磯辺、北出、根田、宗林、武田、三寺、見延 各評議員(7名)

開会に先立ち、三角集会担当幹事より、出席者 57 名、委任状 6 通で評議員会細則第 3 条の規定による評議員会の成立要件を満たしている旨報告があった。

議題

1. 会長挨拶(神田会長)

評議員会開催に先立ち、神田会長より挨拶があった。

春季の評議員会後に評議員の方々から、秋季大会開催やJOの投稿促進に関して前向きな提案があったことが報告され、感謝の意が示された。秋季大会についてはオンライン開催となり、川合幹事が大会実行委員長、岡幹事が大会事務局長、幹事会が実行委員会となり開催されることが報告された。研究発表申込み締切時点で約 230 件と、多くの申込みがあったことが報告された。大会は 11 月 27 日~29 日の期間で行われ、11 月 28 日には受賞記念講演やオンラインの懇親会が行われることが述べられた。

春季評議員会以降の学会関連の動きとして、JpGU が 7 月にオンラインで開催され、第 3 回の西田賞を受賞した東塚会員のスペシャルレクチャーが行われたことが報告された。7 月に総合海洋政策本部の参与に中田会員、原田会員が任命されたことが報告された。同じく 7 月に AMS のヘンリーストンメリサーチメダルをハワイ大学の Qiu 会員が受賞したことが報告され、祝意が示された。8 月 19 日に平野名誉会員が逝去された事が報告され、哀悼の意が示され黙祷が捧げられた。

日本学術会議のマスタープランの重点大型研究計画として採択された「深海アルゴフロートの全球展開による気候・生態系変動予測の高精度化」について、文部科学省のロードマップ 2020 の掲載に応募し、8 月 13 日にヒアリングが行われ、不掲載という結果になったことが報告

された。今後、何かしらの予算措置を得て計画を実現していくよう学会としても取り組んで行くことが述べられ、本計画の推進に尽力された日比谷会員へ感謝の意が示された。

日本学術会議の会員任命問題について、10月6日に JpGU から声明を出すことについて呼びかけがあり、評議員会の賛同を得た上で日本海洋学会も声明を支持することを表明し、10月9日に 90 学協会の連名で緊急声明が出されたことが報告された。

2. 報告事項

1) 会務報告

庶務(岡幹事)

会員の異動状況、シンポジウムの開催・共催等について報告された。

編集

① JO(江淵編集委員長)

JO Vol. 74(1)から Vol. 76(5)までの発行状況について報告された。また、2011年から2020年上期までの論文の投稿・受理状況について報告された。現在論文を受け付けている2件の特別セッション、今後企画されている1件の特別セッションについて報告された。また、編集委員のジェンダーバランスが懸案事項となっていることが報告された。

② 海の研究(吉田編集委員長)

春季評議員会以降、29巻3-5号を発行し、学会 Web ページへの掲載、J-STAGE への登録が行われた事が報告され、11月に29巻6号を刊行予定であることが報告された。

③ JOS ニュースレター(安藤編集委員長)

2020年度はコロナの影響で若干遅れながらの刊行となっていることが報告された。10巻1号は6月8日、2号は9月1日に刊行されたことが報告され、3号は11月15日～20日前後の刊行の見通しであることが述べられた。4号は予定通り3月1日刊行予定であることが報告された。コロナの影響で記事が集まりにくい状況となっており、積極的な記事の投稿が呼びかけられた。

研究発表(西部幹事)

2020年度の春季大会は JpGU-AGU Joint meeting 2020 の中で7月にオンラインで開催されたことが報告された。2020年度の秋季大会はオンラインでの開催に向け、幹事会のメンバーを中心に準備を進めていることが報告された。2021年度の春季大会は JpGU2021 で開催予定であることが報告され、現地開催とオンライン開催の両面から検討されていることが述べられた。

賞選考

① 学会賞・岡田賞・宇田賞(蒲生委員長)

選考状況について報告された。

② 日高論文賞・奨励論文賞(齋藤委員長)

選考状況について報告された。

③ 環境科学賞(福田委員長)

選考状況について報告された。

選挙管理(安田幹事)

役員選挙、幹事選挙、各賞可否投票および各種選考委員選挙の準備状況、選挙スケジュールについて報告された。

広報委員会(安中委員長)

JpGU 大会にて海洋学会のオンラインブース展示を行ったこと、学会の Web ページの更新作業を行ったことが報告された。

海洋環境委員会(梅澤委員長)

2020 年度青い海助成事業の応募状況について、一般提案型について 1 件採択済みで、緊急提案型については引き続き募集中であることが報告された。

西南支部(広瀬支部長代理)

西南支部のシンポジウムと総会は、12 月 11 日に琉球大学で現地開催する予定であることが報告された。

海洋環境問題研究会(梅澤研究会会長)

10 月にオンラインで総会を実施したことが報告された。沿岸環境調査マニュアルの改訂の実施状況について報告された。

沿岸海洋研究会(多田研究会会長)

8 月 24 日に沿岸海洋研究 58 巻 1 号を発刊したことが報告された。また、表紙デザインが新しくなったこと、今号から毎号、総説を掲載することになったことが報告された。速水論文賞の授与について報告された。

海洋生物学研究会(杉崎研究会会長)

次期会長の推薦について報告された。「海洋生物シンポジウム 2021」の開催の検討状況について報告された。

教育問題研究会(須賀研究会会長)

2020 年度前期の活動状況について報告された。第 25 回の海のサイエンスカフェが 7 月 19 日にオンラインで開催されたことが報告された。教員免許状更新講習事業への講師派遣、海の出前授業等の実施状況について報告された。後期の活動予定として、11 月 21 日にオンラインで開催されるサイエンスアゴラへ公募企画ブースに出展する予定であることが報告された。その他、秋季大会での海洋教育に関するセッションの開催、教員免許状更新講習への講師派遣、大学施設を利用した海洋教育の実践、海の出前事業の実施計画等について報告された。

ブレークスルー研究会(田村研究会会長)

2020 年度の活動状況について報告された。次期会長の推薦について報告された。これまでに実施した活動、クラウドファンディングを利用した乗船実習や若手の研究資金の取り方講座等の企画について所感が述べられた。

研究に関する将来構想ワーキンググループ(岡幹事)

今年度新たに立ち上げられた本ワーキンググループの目的、メンバーの選考状況、研究に関する将来構想の検討状況、今後の予定について報告された。

日本海洋学会 80 周年記念事業(西部幹事)

80 周年記念事業にむけた準備状況、スケジュールについて報告された。

2) 学界関連報告

学界動向(伊藤副会長)

学界関連の動向について報告された。詳細については JOS ニュースレターに掲載される。

日本地球惑星科学連合(川合幹事)

7 月のオンライン大会が終了し、JpGU の執行部が新体制に移行したことが報告された。会長は東京大学の田近英一教授、大気水圏セクションのセクションプレジデントは総合地球環境学研究所の谷口真人教授、バイスプレジデントは東京大学の佐藤薫教授と東塚会員、セクション幹事に北海道大学の安成哲平助教が選出されたことが報告された。また、JpGU の執行部には海洋学会から河宮会員が財務担当、日比谷会員が総務担当として加わっていることが報告された。

水産・海洋科学研究連絡協議会(神田会長)

2020 年度の連絡協議会は、6 月 10 日に Web 会議で開催されたことが報告された。会長に古谷会員、副会長に北出会員が選出されたことが報告された。

男女共同参画(安中幹事)

男女共同参画学協会連絡会で 5 月に実施した緊急事態宣言による在宅勤務の実施状況に係わるアンケートを実施し、7 月にその報告書が男女共同参画学協会連絡会の Web ページで公開されたことが報告された。10 月 16 日にシンポジウムがオンラインで開催され、原田会員が講

演を行ったこと、海洋学会からも希望者が参加したことが報告された。また、海洋学会における男女共同参画の現状について報告した内容について紹介された。

3. 審議事項

1) 2021年度秋季大会について(西部幹事)

2021年度の秋季大会について、2021年9月13日～17日の会期で、東京大学柏キャンパスにて実施することについて審議され、承認された。

2) ブレークスルー研究会会長交代について(岡幹事)

ブレークスルー研究会会長の交代について審議され、海洋研究開発機構の茂木耕作会員が次期会長として承認された。

3) 海洋生物学研究会会長交代について(岡幹事)

海洋生物学研究会会長の交代について審議され、水産研究・教育機構の田所和明会員が次期会長として承認された。

4. その他

国連海洋科学の10年に向けた海洋学会の取り組みや、福島第一原子力発電所の処理水の海洋放出についての対応について意見交換を行った。

2021年度秋季大会の大会実行委員長である津田敦会員より、準備状況の紹介と併せて挨拶があった。

以上